我が街の記念碑（モニュメント）

36

千住大橋

千住大橋駅
徒歩5分

芭蕉が旅立った
最古のタイドアーチ橋

【足立・書記・浪江紀之通信員】日光街道や旧日光街道、墨堤通りが交差する場所に位置する千住大橋。隅田川で隔たれた足立区と荒川区を文字通り橋渡ししてきたことで、両区のシンボルとして地元民から愛されています。

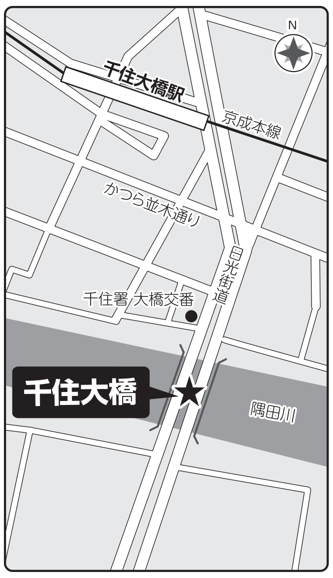
その歴史は古く、徳川家康の命で1593年に架橋工事が始まり、その翌年に完成。当初は敵から江戸を守るため隅田川上には千住大橋しか架かっておらず「大橋」と呼ばれていましたが、1659年に両国橋ができると「千住大橋」へと呼称が変わりました。

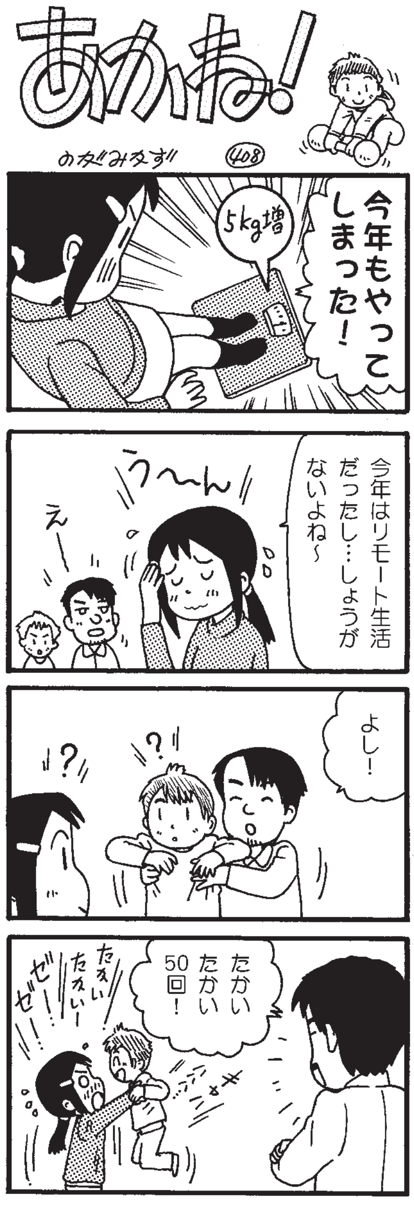
松尾芭蕉が「奥の細道」を制作するため旅立ちの地としたこと、歌川広重の名所江戸百景の1つ「千住乃大はし」に描かれていることでも有名です。最初の架橋から1885年の台風による洪水まで、一度の流出も無く江戸時代の300年近くを生き抜いたと言われています。さらに「タイドアーチの橋としては日本最古」のものでもあります。

最初の千住大橋の橋杭材は、伊達政宗が寄進した「水に強くて朽ちにくい高野槙の材木」であるとの言い伝えがあり、当時の川柳にも「伽羅よりもまさる千住の槙の杭」と詠まれています。流されてしまった後も住民たちが槙の杭を拾い集め火鉢にしたり、仏像に加工して守り神として祀ったりしたと云われていましたが、その後の調査によって2003年、「高野槙の橋杭」が千住大橋の橋下に残っていることが確認されました。

今でも、千住大橋の下を通る千住小橋の橋上から「高野槙の橋杭」の遺構を確認することができ、橋のたもとにある大橋公園では「矢立初めの碑」を見ることができます。ぜひ一度、訪れてみてはいかがでしょうか。

奥の細道
矢立初めの地
足立区と荒川区をつなぐ千住大橋





忘れえぬこと

元請が破産手続き
仲間の応援で助かった

大工　前山　元広

昨年の9月中頃、仕事をもらっていた会社から「7月請求の支払いを待ってもらえないか」との連絡が。「わかりました」と答えたものの、ここは以前にも遅配が続いたこともあり、危ないと思いました。10月初旬に現場へ赴くと、その会社が「破産手続きに入った」という張り紙があり、立ち入り禁止になってしまいました。心の中で、「またか！」と思いました。実は、こういったことは2度目なのです。

現場においてある自分の道具を積み込み、支部事務所へ相談に向かいました。7月から支払いがないことを説明すると、持続化給付金の受給条件に合うからと給付金申請の手助けをしてくれました。本当に助かりました。

その後、仕事は1カ月ほどありませんでしたが、仕事仲間から「手伝ってくれないか」と連絡があり、今はなんとか仕事を継続できています。さらに1カ月が過ぎ、中断していた現場の設計者から連絡があり、施工を再開するとのこと。お施主さんとは、10年来の付き合いなので、「わかりました」と返事をしました。今では、その現場の頭になり、仕事をしています。下請業者は、すべて仲間でしたので、応援を頼み工事を進め、もうすぐ引き渡しとなります。

私の尊敬する方が、「壮年は、試練を勇敢に越え、輝きを放つのだ。信念と誠実の行動は、周囲の理解の積み重ねが共感になり、さらに信頼へと広がる」と言っていました。書記の即座の対応と親切丁寧なやり取りが、今でも心に残っています。ありがとうございました。

（府中国立）

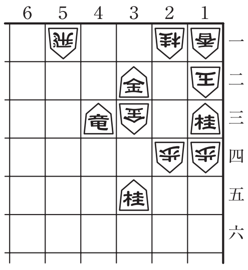
さまざま

ネット中傷で出家

フリーアナウンサーとして活躍していた髙橋美清は、2015年に仕事関係者から執拗なストーカー行為を受け、被害届を提出。相手は逮捕されたが、その直後に不慮の事故で死亡。その時から事実無根の罵詈雑言を浴び、壮絶なネット中傷に晒されてしまう。

自殺未遂を図るまでに追い込まれた彼女は、苦しみを乗り越えるために比叡山で修行して出家。昨年12月には、中傷被害者を癒す「駆け込み寺」を建立した。

詰将棋



チョット一服（1028）

東京23区では新型コロナウイルスの感染拡大で、15区が成人式の会場での開催を見合わせ、オンライン開催とするところも出てきた。例年、成人式会場には艶やかな女性の晴れ着姿が溢れていた。前撮りで晴れ着姿を写真に収めたにしても、晴れ着姿の同級生が集まることができないのは寂しい限りだろう。

千葉県浦安市は東京ディズニーランドで成人式を行なってきたが、今回は3月7日に延期。他にも延期する自治体が出てきているが、時期を確定できていないところもある。コロナ禍が新成人の心に残したものは大きいが、それでも希望をもってほしい。

DVD ブルーレイ

5パーセントの奇跡 ～嘘から始まる素敵な人生～

監督　マルク・ローテムント

95％の視力失ったサリーの挑戦

DVD
5パーセントの奇跡
～嘘から始まる素敵な人生～

2015年9月の国連サミットで採択されたSDGsは、国連加盟193カ国が2030年までの15年間で達成するために掲げた目標だ。8番目の目標である「働きがいも経済成長も」のターゲットには、「障害者の社会参加と自立支援」が含まれている。

2019年の参院選では、「れいわ新選組」から二人の重度障害を持つ議員が誕生したが、「重い障害のある人に務まるのか」「特別扱いだ」などの批判が出るなど、日本ではまだまだ障害者の権利を保障する土壌が育っていないことが明らかになった。

2017年にドイツで製作された『5パーセントの奇跡 ～嘘から始まる素敵な人生～』は、95％の視力を失った若者が一流ホテルに勤務する夢のために奮闘する実話を、マルク・ローテムント監督が映画化した笑って泣けるハートフル・エンターテイメント・ドラマ。

スリランカ人の父とドイツ人の母を持つ青年サリー（コスティア・ウルマン）は、先天性の病気により視覚の95％を失ってしまう。周囲が勧める盲学校への入学を断り、努力の末に普通高校を卒業したサリーは、5つ星ホテルで働くという夢を実現させるため、無謀にも目が見えないことを隠して一流ホテルで見習いをスタートすることに成功するのだが…。

障害者雇用の割合が日本の倍以上あるドイツにあっても、5％しかない視力で一流ホテルマンを目指すのは至難の業。しかし、周りの家族や仲間の力を借りながらも、明るく前向きに奮闘努力するサリーの姿は、問題なのは障害ではないことに気づかせてくれるに違いない。